



① 玄関ホールの正面に配された坪庭。将来的にお父さまの部屋になる和室からも、眺めることができる。② リビングの一角に洗面コーナーを配置。その大きな一面鏡がさらなる広さを演出。③ 窓を開けると12.6帖の中庭と一体化し、リビングはいっそう広々とした雰囲気。④ 1階と2階をつなげるストリップ階段を配したリビング。凹凸のある石を張った壁にスポットライトが陰影をつけ、趣ある空間に。⑤ クリスタルガラスをあしらったモダンなシャンデリアも印象的なキッチン。「アイランドキッチンなので、ふたりで立っても自由に動けて使いやすい」と言う。⑥ モノトーンの2色使いを希望したご夫妻。黒いサイディングと白の塗り壁という素材の違いも加わり、表情豊か。



## 中庭が開放感をもたらすLDKを中心に、家族のつながりを育む住まい。

植物好きの崇夫さんの希望で、中庭は緑の映える白が基調。夏はビニールプールを出して子どもたちの遊び場にも。「直接、風呂場に行けるので便利」とか。



感性ある住まい やすらぎの住宅  
**com HOUSING**

岡山市北区十日市中町6-22  
☎0120-67-2102 fax.086-223-2103  
◆営/10:00~17:00  
◆休/水曜・祝日  
※営業時間外もご連絡をいただければ相談に応じます。  
<http://www.comhousing.com>  
※「オセラ」掲載のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。



「九州で暮らす父がケガをして、連絡が取れなくなったことがあり、妻が同居を提案してくれたのがきっかけでした」。秀島崇夫さん(二十八歳)と妻の絵里香さん(二十三歳)は、二〇一三年の冬にそれも想定しての家づくりに取り組み始めた。当初は大手ハウスメーカーに足を運んだそう。しかし、決まった形での提案に疑問を持つようになった頃、雑誌で目にした「コムハウジング」の家に惹かれて相談することに。「中庭のある家を見て、こういう建て方もあるんだなど、ある意味衝撃を受けました」担当者から一〇まで親身になって相談に乗ってくれたのも、ここにお願ひした大きな理由です。「ふたりともに料理が好きで、揃ってキッチンに立つことも少なくない夫妻が、まず決めたのはセラミック製ワークトップのシステムキッチン。そこからの家づくりを、「このシステムキッチンありき」で進めたのだとか。さらに、小さな息子を持つふたりは、「反抗期が来ても、外出や帰宅の祭に必ず顔を合わせられるように」と、LDKを家の中心に。

もうひとつ重視したのは、洗練されたデザインと、収納力や使い勝手の両立。「素人だから、現実的ではない要望も多かったと思います」と笑う崇夫さん。「抽象的なイメージを伝えると、商品や素材を具体的に提案してくれるので、検討しやすかった。何を選ぶかで予算は変わるけれど、常に複数の選択肢を準備してくれたので、無理のない選択をすることができました」とも。いっぽう絵里香さん曰く、「雑誌などで気になった素材やインテリア雑貨をどこかに採用したいと相談した時も、さまざまな観点から提案をしてくれたので、納得のいく家になりました」。昨年十二月から新居で暮らし始めた秀島さん一家。現在は、「子どもたちの成長ぶりなども含め、いろいろ考えながら、家具を少しずつ揃えたり、外構を整えたり」と、その過程を愉しんでいるのだと言う。そんな秀島邸のなかでも、家族みんなのお気に入りの場所となっているのが中庭。暑くなるこの時期、仕事から帰るとすぐに中庭で子どもたちと水遊びに興じる崇夫さんは、こう話す。「光と風をたっぷりと家のなかに取り込めるし、部屋が広く感じられます」。その横で、「直接浴室とつながっているの、水遊びをそのままお風呂に入れるのがいいですね」と絵里香さん。

「家族のつながりを深めていきたい」。そんな想いを込めて創り出されたこの家には、日々、秀島家の新たな歴史が刻まれている。